

授業情報					
開講年度	2022年度	開講箇所	大学院教育学研究科		
科目名	数学科教育演習(M2-2)(高木)				
担当教員	高木 悟				
学期曜日時限	秋学期 01:月2時限				
科目区分	演習(数学教育)	配当年次	2年以上	単位数	2
使用教室		キャンパス	早稲田		
科目キー	371E210030	科目クラスコード	02		
授業で使用する言語	日本語				
授業方法区分	【対面】ハイブリッド(対面回数半数以上)				
コース・コード	EDUX682S				
大分野名称	教育学				
中分野名称	教育学				
小分野名称	その他				
レベル	修士レベル	授業形態	演習／ゼミ		

シラバス情報			
授業概要	この科目を履修する前に「数学科教育演習(M2-1)(高木)」を履修すること。 教育情報, 特にファジ情報の分析や評価に関連して, ファジ理論の研究とその応用についての演習をおこなう。内容としては, ファジグラフ理論を応用した教育情報分析や近似推論を応用した教育評価システムなどをテーマとした応用研究をおこなう。演習では, 学術論文の講読や実践研究をおこなうとともに, 関連する学会などへの論文発表の指導もおこなう。 対面とオンラインを交互に組み合わせる。対面授業時は状況に応じてzoomで生中継し, オンライン授業時は基本的にzoomのリアルタイム形式でおこなう。		
授業の到達目標	ファジ理論を応用した教育情報分析や近似推論を応用した教育評価システムに関して研究する準備ができる。関連する学会などで論文発表の準備ができる。		
事前・事後学習の内容	テキストを決め, 毎回セミナー形式で演習をおこなう。セミナーで発表するための準備に3時間程度を要する。		
授業計画	#1. ガイダンス #2～#15. ファジ理論を応用した教育情報分析・教育評価システムに関する演習		
教科書	受講者と相談して決める。		
参考文献	「ファジ理論 基礎と応用」山下元監修 瀧澤武信編著 共立出版 「ラフ集合と感性」森典彦他著 海文堂出版 「Rough Sets: Theoretical Aspects Of Reasoning About Data」Z. Pawlak著 Springer		
成績評価方法	<table border="1"> <tr> <td>割合</td><td>評価基準</td></tr> </table> 平常点評価: 100% 演習での発表, 準備, 討論の態度などで評価する。	割合	評価基準
割合	評価基準		